

都立 第五福竜丸展示館ニュース

2009.07.01
No.352

(7・8月合併号)

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

企画展と記念コンサート開かれる 調和の海へ―第五福竜丸の希望の航海を



船体に寄り添うようにセットされた特設会場で演奏会がおこなわれた。今後もこうした催しの開催を期待する声もよせられている

【写真提供 時事通信社】

五月一六日より企画展「新藤兼人監督・映画第五福竜丸公開五〇年展」が開かれ、記念のコンサートが催されました。

作曲家林光さんによる第五福竜丸に捧げられた「ラッキードラゴン・クインテット」(ピアノ五重奏曲)は、今回新たに三楽章「調和の海へ」が加えられて完結版として初演されました。

演奏はピアノの寺嶋陸也さん、日フィル弦楽四重奏団の皆さん。林さんは、「福竜丸にまだない幻の海、核兵器も汚染もない海を自由に航海する姿を想像して作曲した」と語りました(関連2、3面)。

*
映画「第五福竜丸」と新藤兼人監督についての企画展示には、年配の方の反響が多くよせられ、なつかしそうに展示に見入る姿が見られました。

映画の上映は、六月の毎週土曜日に四回おこなわれ、のべ一六〇名の方が鑑賞しました。展示館での映写が午後からのため真っ暗にはなりませんしスクリーンも手作りでしたが、熱心に画面に見入る方、若い人の参加もあり、久保山さんの亡くなる場面では涙をぬぐう姿も見られました(2面に感想文を紹介)。

福竜丸と音楽会という特別な時を過ごす

川口重雄

梅雨入り前の曇り空の五月一日、三月五日の見学会（高3生・保護者三名）以来二か月ぶりに展示館を訪ねました。お目当ては、その日から始まった「新藤兼人監督映画『第五福竜丸』五〇年企画展」とコンサート「ひびきあう福竜丸のしらべ」です。

午後四時三〇分、館内は一八〇人の観客で一杯、コンサートが始まりました。第一部はハイドン「弦楽四重奏曲63番ニ長調ハひびり」と今日のピアノ奏者、寺嶋陸也さん作曲のピアノ組曲「ピカソくんをたたえて」。

休憩をはさんで第二部はシヨスタコーヴィツチ「弦楽四重奏のための二つの小品」から、観客席の最前列に座る林光さんの「Black is color of

my true lover's hair」と「魚とり」。そしていよいよ、ピアノ五重奏曲「ラッキードラゴン・クインテット」の演奏が始まりました。

第一楽章「出航」、第二楽章「曳航」は、映画「第五福竜丸」の音楽を担当した林さんが、ピアノ曲として創り直したもので、演奏前に林さん自身が「第一楽章は歌謡曲のような曲調で」と紹介された通りの旋律で、映画の場面を思い出しました。そして死の灰を浴びた福竜丸が夜の沈黙の海を滑ってゆくような第二楽章から、第三楽章「調和の海へ」。今回が初演です。陸に揚がった福竜丸もいっしょに聴く曲です。

それはまるで、コンサートの最後の曲目・宮沢賢治「星めぐりのうた」の通り、星のまばたく夜空を超えて未来に向かつて航海を続ける福竜丸を謳った曲で、「おーいッ福竜丸、僕たちをおいてゆくなよ」と、私たちに元気を与えてくれる素敵な曲でした。

（かわぐちしげお／協会理事、田園調布学園教諭、丸山眞勇手帖の会）

コンサートの感想より

◇天井が高いためか繊細な音が立ちのぼるようでした。三楽章の加わったラッキードラゴン・クインテット、今こいう時期で核兵器廃絶への確かな道筋をつけてともに進もうといわれているようで、孫子の世代へしっかりと引き継がねばの思いを新たにしました。

◇マグロ漁の活気づいた音楽から最後の「調和の海へ」まで、「第五福竜丸は生きていく」という新藤兼人さんの言葉がそのまま、あの音楽に息づいているように思いました。

◇ほかのどこにもあり得ない時間。ゆったりと芯の強い音楽に励まされます。

◇とても温かい人たちのまなざしと演奏家のまなざしで空気が充たされていたと感じました。

◇この曲がいろいろなところで演奏されたらいいなと思いました。今後もコンサートを続けてほしいと思います

◇やさしいきもちになりました。

映画上映会の感想から

◇懐かしい俳優と日本の風景、歴史に触れることができました。本物の第五福竜丸の下で見ることができ大変感慨深いものでした。

◇忘れてはいけない事実を、このように映像で残してくださった新藤監督に感謝いたします。

◇考えさせられる映画でした。冷戦崩壊後もあらたな対立と戦いが始まり、さまざまな戦争と核実験が続けられている現実を、私たちは直視しなければならぬとともに、久保山愛吉さんの「死」を無駄にしてはならないと思いました。

◇あいかわらず続けられている核実験。いつになったらなくなるのか。もつと多くの人がこの映画をみるといいのと思います。

お詫びと訂正

前号にて尾高尚忠氏のお名前が誤りがありました。

第五福竜丸は 生きています

新藤兼人

今回の企画展に新藤兼人監督から送られた書

第五福竜丸は「調和の海へ」の船出を待っている

～林光「ラッキードラゴン・クインテット」の完結版初演をきく～

池田逸子

ことしは第五福竜丸がアメリカの水爆実験で被災して五五年目になる。被災の衝撃を映像に刻印し、人々に記憶させた映画「第五福竜丸」(新藤兼人監督)公開五〇年を記念して、去る五月一六日、都立第五福竜丸展示館でコンサート「ひびきあう第五福竜丸のしらべ」が開催された。

プログラムの目玉は三年前、開館三〇周年記念コンサートで委嘱初演された林光の「ラッキードラゴン・クインテット」。二〇代の林光が担当・作曲した映画「第五福竜丸」の音楽を下敷きにし、再構成・リライトしたピアノ五

重奏曲だ。しかも、前回は二重奏形式であったこの作品にもう一楽章「終楽章」が加筆され、その完結版が今回、お披露目初演されたのである。二重奏版初演のさいに作曲者は、この曲がメタシメタシで終わらないのは、第五福竜丸の運命がそのようなものだからだと述べたが、さらに、自作の映画音楽がこのような形で蘇ったことを喜びつつ、「第五福竜丸とともに私たちが希望が保たれることを心から祈って」といると結んだ。今回加筆された第三楽章「調和の海へ」は、まさにその祈りの心が生み出したのだと言えよう。



リハーサル風景

さて、この「ラッキードラゴン・クインテット」、映画の音楽を下敷きにしたとはいえ、両者にはかなり違いがある。だが、違つて当然。およそ半世紀に及ぶ歳月を経て、あらためて映画「第五福竜丸」に創造意欲を掻き立てられた作曲家は、旧作を下敷きにしたつても、今度は映像に付随するのではなく、それから独立した音楽、映像なしに聴き手の想像力を刺戟し飛翔させることのできる音楽を書こうとしたにちがいないのだから。

そもそもこの映画音楽からテーマやモチーフを借りているのは第一楽章「出航」だけと言つてよい。港に停泊中の第五福竜丸に積み荷され出港する場面に相応しい揚々として推進力に富むイ長調の数種のメロディーや、船内で乗組員たちが口ずさむ軽快なヨナ抜き長調(ドレミソラド)の俗謡調のメロディーなどが組み合わさつて、全体に活気にみちた楽章である。

第二楽章「曳航」は映画で使われた音楽とは異なる。被爆した第五福竜丸がダグボートに曳かれて焼津港から出ていく場面の音楽について、後に林光は「まっくらな海を曳航されて行くシーンに圧倒されながら、それに立ち向かい、それへとしみとおつて行く音楽が書けなかった」(映画音楽覚書「一九八八年」と回顧しているのだが、「ラッキードラゴン・クインテット」の第二楽章でその無念を晴らした。ほぼ半世紀を数えるその後の長い作曲生活の中で「原爆小景」やヴィオラ協奏曲「悲歌」などの傑作を数多く生み出した作曲家・林光の真骨頂(とりわけ一九九〇年以降の作品に共通の)をそこに聴くことができる。無駄のないシンプルで書かれた、わずかに三小節のゆるやかなテンポの楽章で、感傷や甘さの忍び込む隙がないほど深い悲しみの響きをたたえた鎮魂の歌が静かに奏される。

第三楽章「調和の海へ」は完全に映画から離れ、自然の調和を取り戻した海を航行する第五福竜丸を夢想した軽やかなファンタジック・ロンド(主要テーマも被爆前の冒頭メロディーと同じイ長調)。時折、林作品に馴染みの、南の風がさわやかに吹き抜け、今回の記念企画のために新藤監督が揮毫した書「第五福竜丸は生きています」と符丁を合せて航跡を描く。

日本フィルハーモニー交響楽四重奏団と寺嶋陸也(ピアノ)の演奏で船先と船腹を囲むようにして行われる展示館のコンサートでは、高い天井から死の灰ならぬ音楽が第五福竜丸に降り注ぐ。降り注ぐ音楽を浴びながら「調和の海へ」の船出を待っているかのようだ。(いけだいつこ/音楽評論家)

ラッキードラゴン・クインテット3楽章完結版

ライブDVD 申込受付中!

5月16日のコンサートライブ録音、リハーサル風景、林光さんインタビュー「私と原爆そして福竜丸」。演奏者石井啓一郎さん、寺嶋陸也さんからのメッセージほか

頒布価格 1,300円(送料200円)

猿橋勝子の評伝を上梓して

米沢 富美子

二〇〇七年九月に他界した地球化学者・猿橋勝子の初の評伝を書き上げ、今年四月に、岩波科学ライブラリーの一冊として、『猿橋勝子という生き方』というタイトルで上梓した。

*

一九五四年三月一日、太平洋マーシャル諸島のビキニ環礁で水爆実験が行なわれた。爆心地から一六〇キロ離れた

洋上で、第五福竜丸の船員たちが遠洋マグロ漁業をしていた。

まず目もくらむばかりの閃光が襲いかかり、暫しの後、巨大なキノコ雲が空いっぱい広がった。そして閃光から八分後に、今度は地鳴りのような轟音が海底から突き上げてきた。船は波間に大きく揺さぶられる。

八分というのは、音波が一六〇キロの距離を駆けるのに要する時間である。そして一六〇キロは、東京から静岡までの距離に相当する。東京の上空で炸裂した水爆の爆発音が、静岡で轟音のように聞こえる。ビキニ水爆の威力を示す、ひとつのパロメーターである。

爆発から二時間後、第五福竜丸の上に白い灰が降り始める。芥子粒大の灰は甲板の上にも雪のようにつもって、歩くに靴後が残る。

第五福竜丸の船員たちが持ち帰った白い灰は、放射能を含んでいて「死の灰」と呼ばれるようになる。この「死の灰」を、微量分析法で調べてその正体を明らかにしたのが、当時三四歳だった猿橋勝子である。

猿橋の分析の結果、死の灰の正体は、サンゴの粉末であることが判明した。このことは、ビキニ水爆の破壊力を如実に物語っている。水爆はビキニのサンゴ礁をなぎ倒し、硬いサンゴを芥子粒大の粉末にまで破壊し尽して、富士山の一〇倍の高さにまで巻き上げたのである。

*

乗組員二三名のうち、二〇〇四年までに放射性被爆が原因の肝臓がんで他界した者、一四名。生存者で肝臓がんなどのがんを発症した者、七名。がん発症率は九〇%だった。広島、長崎に続いて、三度目の被爆による犠牲者たちである。

猿橋は、「三度の原水爆被害を受けた日本人は、核兵器廃絶の思想を骨の髄まで染み込ませなければならぬ」と

考えた。そして、平和を願い、核兵器に反対するための行動を、猿橋は生涯続けたのだ。た。

*

女性科学者を励ますために猿橋が設立した「猿橋賞」は、広く知られるようになった。それにもかかわらず、猿橋勝子自身の「科学者としての業績」や「人間としての生き方」のほうは、ほとんど知られていないのが現状だった。

猿橋勝子の評伝執筆を思い立ったそもそもの動機は、こういう現状を残念に思い、猿橋勝子その人を多くの人たちに知ってもらいたい、と考えたことだった。

さまざまな資料を参考にしたばかりでなく、猿橋賞の初期の受賞者五人が手分けして、生前の猿橋を知る人たちが何人かに聞き取り取材をした。

猿橋の生い立ち、学問への思い、地球化学者としてのいくつもの業績など、これまで知られていなかったさまざまな事実も掘り起こし、人間・猿橋勝子を描き出すことができた。

「諸刃の剣の科学。その功と罪を最も的確に把握しているのが科学者である。だから、科学者こそが、哲学者の視座で、功と罪とを語り続けなければならぬ」というのが、猿橋からわれわれへのメッセージである。

一人でも多くの人にこの本を読んでいただき、核兵器のない世界を実現するために、皆でがんばっていききたい。それが、著者としての私の切なる願いである。

(よねざわふみこ 物理学者・慶応義塾大学名誉教授)



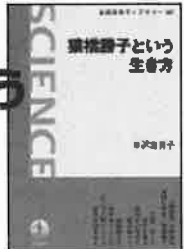
猿橋さん(右)と米沢さん。猿橋賞受賞のころ。

【岩波科学ライブラリー 15】

猿橋勝子という生き方

米沢富美子

先駆女性科学者から次世代へのエールを込めて贈る評伝。 B6判・定価1280円



岩波書店 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
http://www.iwanami.co.jp/ [定価は税別です]



スクールの中の芝の水溜りでのベニヤ板のサーフィン (写真・島田興生)

キラキラ輝く子らの瞳に…

『水爆の島マーシャルの子どもたち』を読んで

榛葉文枝

られています。大自然の恵みに感謝しながら生活する幸せを描いているかのように思えます。

しかしこの本の帯には「後遺症に苦しみ、島捨ての悲しみ、飢餓との闘い。母と子のいのちがつないだ核実験の島マーシャル諸島の被曝体験を描いた写真絵本」との紹介があります。

写真と絵と文章で綴られているこの本を読むと、この島に起こった悲劇が惻々と伝わってきます。



マーシャル諸島では、一九四六年から五八年までに、六七回もの原水爆実験を

アメリカが行ってきたこと。強い放射能を受けた島の人たちは検査を受けたものの、治療は受けさせてもらえなかったこと。子どもたちの未来を考えると生まれ育った島であっても放射能に汚染された島を捨てるという苦渋の決断をせざるを得なかったこと、等々。

一九八五年から九一年までマーシャル諸島マジロ島に暮らしたフォトジャーナリストの島田興生さんの分かりやすい簡潔な文章はその事実を私の前に明らかにします。



日本のマグロ漁船「第五福竜丸」は一九五四年三月一日、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験に遭遇し、二三人の乗組員が被曝しました。被曝した日本の船は第五福竜丸だけではなかったことはその後の調査でも明らかになっていきます。

マーシャルの人たちと被曝した日本の人たちのその後の生活がいかにどの困難を背負ったものであったかは想像に難くありませんが、この本はずっしり重いその背景を土台

にしながらも、明るくけなげに生きている子どもたちの姿を読む人に伝えていきます。

「この島で起こっていることはマーシャルのひとびとだけの問題ではありません。もし核戦争や原子力発電所で大事故が起これば、私たちがマーシャルの人たちと同じ運命をたどることになるかもしれないのです」との作者の思いは私も同じです。



この悲劇を二度と繰り返さないためにも、理不尽なものと戦う勇気を失わずに、遅しく生きているマーシャルの子どもたちの姿を多くのみなさんに知ってもらいたいと、紹介させて頂きました。

この本は一三年前に福音館書店の「たくさんのふしぎシリーズ」のひとつとして刊行されました。そのときこの本

を読んで感激した小学四年生の少女が、マーシャルの子どもにあってた手紙を著者の島田さんに託したことが縁となりこの度一三年振りに復刊の運びになったようです。「トビウオのほうやはびょうきです」を担当した津田櫓冬さんの絵と島田さんの文と写真でとても分かりやすく読みやすい本になっています。

私はこの本に出会って、マーシャルの子どもたちの笑顔に励まされましたが、同時に子どもたちの笑顔と笑顔の奥に隠された悲しみをもっと深く理解せねばと思うようになりました。親子や友人たちと一緒に読んでみて下さい。そして読んで語り合い伝えあって頂けたら幸いです。

(しんばふみえ／協会評議員、和光学園非常勤講師)

『水爆の島マーシャルの子どもたち』をひろめてください

一冊七〇〇円(送料一〇〇円)ただし五部以上は送料が安くなりますのでご相談ください。

*お申し込みは第五福竜丸平和協会まで

各地で第五福竜丸パネル展

「核兵器のない世界の実現へ」アメリカ・オバマ大統領のブラハ演説が反響を広げるなか、今年は第五福竜丸のパネル展を開く地域が例年以上に多くなっています。

大阪 5月14日から9月20日までピースおおさかにて「第五福竜丸展」が開かれています。大阪城公園にある同資料館は、大型の平和博物館として大阪府と市により設立され運営されています。

展示は、広島や長崎の原爆資料館で展示されたものと同じ規模の大きなもので、パネルが63枚に大阪のビキニ事件関連の当時の新聞切抜きパネル3枚、マーシャル諸島の核被害のパネル20枚からなります。また現物資料も、死の灰、当直・漁労などの日誌類、ガイガーカウンター、船員の作業服、船員の日用品、漁具、無線機、久保山さんへのお見舞いの手紙など40点余りを展示しています(右上の写真)。

福岡 福岡市アジア美術館あじびホールでは、5月28日から6月2日まで「第五福竜丸展覧会」が開かれました。主催は福岡女性団体交流会(YWCA、あごら九州、I女性会議、新婦人など8団体)と福岡市原爆被害者の会。昨年作製した42枚組の新しいパネルセットと現物資料10点が展示されました。会期中に千人余の来館者があり感想も多数寄せられました。

6月13日、にはパネル展と連動して福岡市立婦人会館にて福岡空襲を祈念する集いがひらかれ、安田和也事務局長が



「知っていますか第五福竜丸のこと」と題して講演、150人が参加しました。

宮城県東松島市では、大石又七さんの講演会にあわせてのパネル展「マグロ漁船 第五福竜丸と乗組員」が6月27日から29日まで開かれました(主催はNPO地球とともに)。

長崎では、6月23日より7月12日までナガサキ・ピースミュージアムにおいて「第五福竜丸展」が開かれています。

7月18日～9月23日には、福島県白河市のアウシュヴィッツ平和博物館の企画展として「第五福竜丸とマーシャル諸島の核被害」展が開催されます。

大阪・富田林市では市主催の平和企画として8月7～9日に「第五福竜丸展」が開催されます。同市では福竜丸のマグロが小売されてしまい、市民が健康診断を受けるという出来事があり、今回は当時の新聞切抜きのパネルや関連資料も展示されます。

このほか7月から8月にかけて、西宮市(市など主催の原爆展7月23日～27日)、千葉県市原市(原爆の絵展7月31日～8月2日)、さいたま、焼津、三島、名古屋などの「平和のための戦争展」で第五福竜丸のパネル展示がおこなわれます。

協会の理事会、評議員会ひらく

財団法人第五福竜丸平和協会は、6月29日に評議員会、理事会を開催し、公益財団法人への移行を念頭において平成20年度事業報告・決算報告、21年度事業計画・予算・人事について審議・決定しました。今年度の役員は以下の方です。

【理事】川崎昭一郎(会長)、奥山修平、川口重雄、坂野直子、山村茂雄、山本義彦

【監事】澤藤統一郎、清水幹雄

【評議員】浅見清秀、飯塚利弘、岩佐幹三、岩垂弘、大石又七、桂川秀嗣、岸田正博、小佐田哲男、猿橋則之、柴田徳衛、榛葉文枝、高原孝生、日塔和彦、藤原弘、三井周、森一久、吉田嘉清

平成20年度会計報告(20年4月～21年3月末)

収入の部	
科目	金額
事業収入	18,569,052
(展示館受託収入)	17,043,988
(広報資料普及収入)	1,525,064
会費収入	2,124,500
寄付金収入	1,510,709
(寄付金)	1,210,739
(巡回展から)	299,970
その他	68,193
前期繰越金	8,094,310
合計	30,366,764

支出の部	
科目	金額
事業費	20,026,802
(展示事業)	13,062,685
(資料収集事業)	2,823,450
(広報普及事業)	3,240,667
(その他の事業)	900,000
管理費	3,213,055
次期繰越金	7,126,907
合計	30,366,764

◆イベントあんない◆

マーシャルの核被害を伝えたジャーナリストたち

1970年代にマーシャルのヒバクシャを取材したジャーナリストの方々のお話を聞く会です。島田興生さんの写真絵本『水爆の島マーシャルの子どもたち』の復刊を記念しての会です。

- ◆日時 7月20日【月・祝】午後1時より～4時
- ◆場所 第五福竜丸展示館内(無料・予約不要)